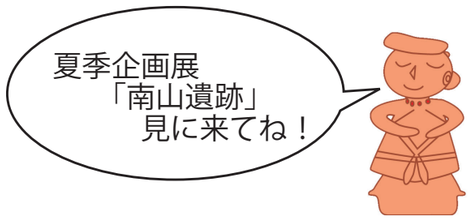
はにわ通信

No.281　平成 30（2018）年 8 月号



【「南山遺跡」ってどんな遺跡？　～夏季企画展特集～ 】

資料 1　南山遺跡付近の航空写真（昭和 27 年 11 月 19 日撮影　国土地理院航空写真 USA-M203-2 より抜粋）

松阪市文化財センターは、平成 30 年 7 月 21 日（土）から 9 月 2 日（日）にかけて、夏季企画展「南山遺跡」を開催しています。そこで、今回はこの南山遺跡について紹介したいと思います。

○海辺の遺跡

南山遺跡は、現在の東黒部地域の土古路町に存在し、おもに奈良時代から室町時代にかけて営まれた海辺の遺跡です。左の写真を見てください。少し古い物ですが、南山遺跡とその周辺を上空から撮影した写真です。写真を見ると、海岸線に平行するように白っぽい帯状のものが 3 本あるのがわかると思います。これらは、砂堆とよばれる砂が積み重なってできた微高地で、南山遺跡は一番南側の砂堆上（周囲の水田より 1m ほど高い）にありました。

みなさんは海辺の遺跡というと、どのようなことを思い浮かべるでしょうか？　魚や貝をとって生活する人びと、あるいは海が近いことを活かして塩づくりをする人びとの姿でしょうか。もちろん南山遺跡からは、このような漁業を営む人びとが生活していたことを示す遺物 (1) や塩に関連する遺物が見つかっています。しかし、この遺跡から見つかった物は、このような当時の庶民が生活していたことを示す物だけではありませ

松阪市文化財センター 夏のイベント♪	8月 1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	備　考
≪中学生ボランティアガイド≫						・場所は「はにわ館 第 1 展示室」。 ・実施時間帯は入館無料。
10：00～12：00	／	／	／	○	○	
13：00～15：00	○	○	○	○	○	
≪スタンプラリー≫						・場所は「文化財センター内」。
9：00～16：00	／	／	○	○	○	

(1) 過去の人間が残した物のうち、土器や石器などの動かすことができるもの。

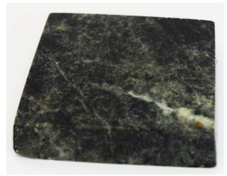
ん。南山遺跡からは、身分の高い人びと（官人：当時の役人）が生活していたことを示す遺物が見つかっているのです。では、それは一体どのような物なのでしょうか？

○官人の存在を示す遺物

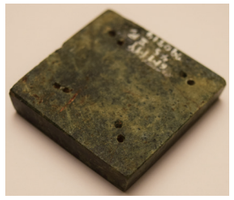
まず、注目したいのが石帯 (資料 2) です。石帯とは、当時の官人が着用した、革のベルト (資料 4) につけられた石製の飾りです。裏側 (資料 3) を見てみると、石帯をベルトにとめるための紐や針金を通した穴がしっかり残っています。次に、須恵器の平瓶 (資料 5) です。この平瓶は、元々あったそそぎ口と把手が欠けてしまっていますが、硯とセットになる水注 (水をそそぐ道具) だと考えられています。水注が見つかったということは、この場所に文字を書ける人が存在してたことを示しており、実際に文字の書かれた土器 (墨書土器) も見つかっています。また、資料 6 は、「安」という文字が書かれた土製のおもり (土錘) です。この文字は線刻で、筆で書かれた物ではありませんが、刻まれた文字の形が美しく、文字を書き慣れた人物の存在を思わせます。では、なぜ官人が南山遺跡にいたのでしょうか？

○河口部の物流拠点？

その理由として、南山遺跡が河口部の物流拠点となっていたことが考えられ、その管理・運営のために官人がいた可能性があります。南山遺跡が位置している場所は、祓川や櫛田川の河口部にあたります。また、南山遺跡の西側は先月号で紹介した古代の港「マトカタの浦」があった場所だと考えられています。これらのことから、南山遺跡は川や海を利用した物流拠点的な集落 （裏面へ続く）



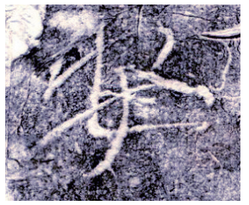
資料 2　石帯



資料 3　石帯 (裏側)

資料 4　石帯［模造］「斎宮歴史博物館提供」

資料 5　平瓶 (水注)



資料 6　土製のおもり (土錘) と「安」の拓本

文化財センター　はにわ館 & ギャラリーの催し物予定

8 月の休館日は、6 日（月）、13 日（月）、20 日（月）、27 日（月）、
9 月の休館日は、3 日（月）、10 日（月）、18 日（火）、25 日（火）です。
開館時間は９：００～１７：００です。

【はにわ館】　入館料 100 円（18 歳以下無料）　＊入館は 16:30 まで

第 1 展示室　■常設展「宝塚古墳の謎」
第 2 展示室　■夏季企画展「南山遺跡」 9/2（日）まで

バーコード読み取り
（文化財センター情報）

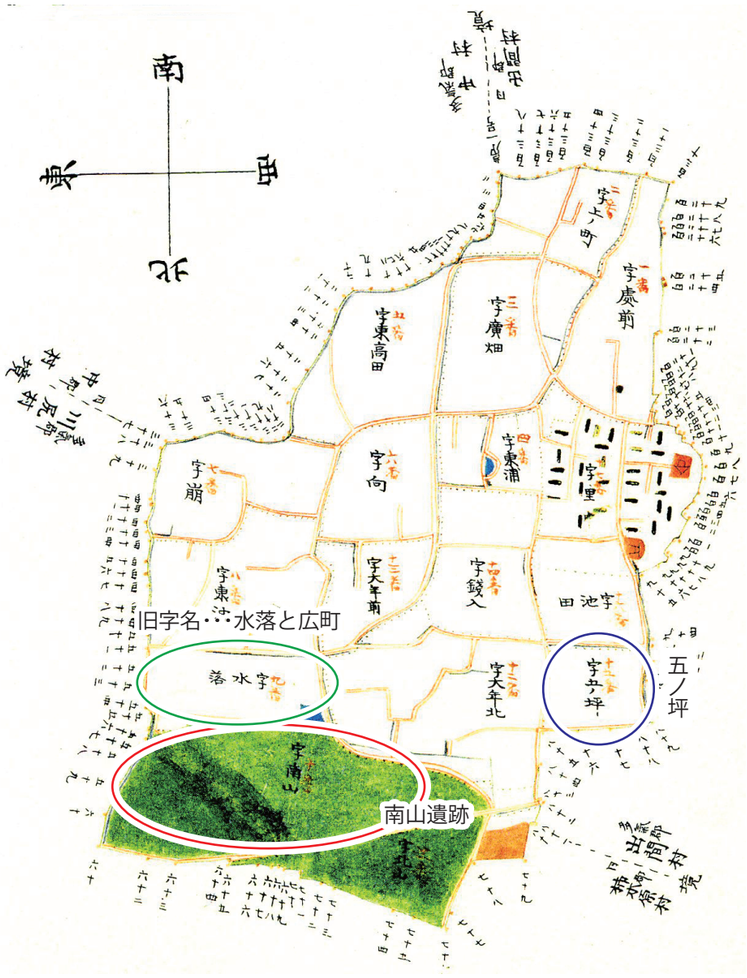
【ギャラリー】　入場無料

第 1･2G　■まつさかのほいくえん　園児造形展　7/28（土）～ 8/5（日）9:30 ～ 16:30
第 2G　■色々展 2018　8/10（金）～ 8/15（水）9:30 ～ 17:00　※最終日は 16:00 まで
第 1･2G　■第 75 回 松阪美術協会展　8/26（日）～ 9/2（日）9:00 ～ 17:00　※最終日は 16:00 まで

【発行】松阪市文化財センター　【電話】0598-26-7330　【HP】https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/

であり、その管理・運営のためにこの地に官人が配置されていたのかも知れません。

○条里制との関係は？



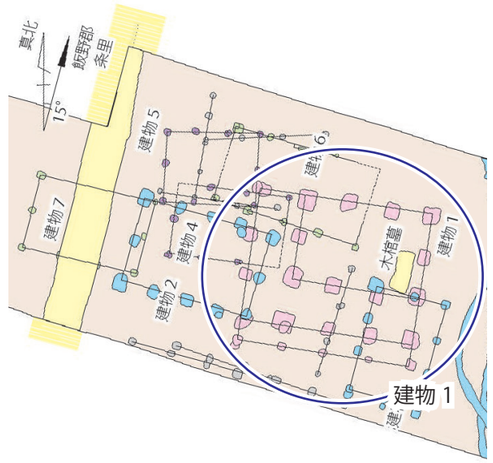
資料 7　明治 19 年 伊勢国多気郡土古路村全図（北が下側になっています）

資料 8　朝見遺跡の掘立柱建物群（東から）「三重県埋蔵文化財センター提供（一部改変）」

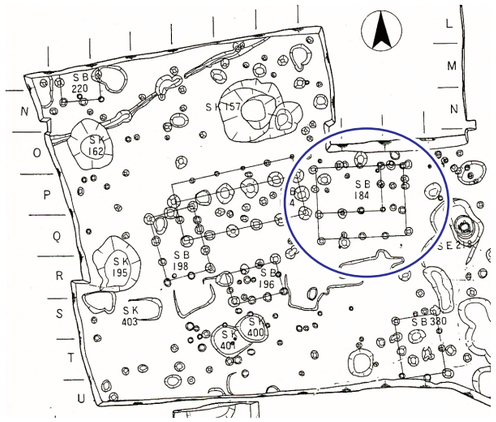
また、南山遺跡周辺は、海岸線の近くまで条里制がおこなわれた地域なので、南山遺跡に住んだ人びとも稲作に深く関わっていたことが考えられます。

条里制とは、古代から中世にかけておこなわれた、現在でいうところの「ほ場整備（耕地の区画を整えること）」です。条里制では、水田は一辺約 110mのほぼ正方形に区画されました。これを条里型地割といいます。表面の航空写真（資料 1）を見ると、南山遺跡の南や南東の方角に正方形に区画された、条里型地割の水田が広がっていることがわかります。また、条里制がおこなわれた水田は「一ノ坪」、「二ノ坪」、「三ノ坪」のように、番号をつけて区画が呼ばれることがあります。『明治 19 年 伊勢国多気郡土古路村全図』（資料 7）を見ると、「五ノ坪」という字名があるのがわかります。この地図の近隣地区の地図を確認したところ、「四ノ坪」や「六ノ坪」などの字名も見つけることができました。

そして、条里制というと、朝見遺跡（和屋町）との関連も気になります。近年おこなわれた発掘調査の結果から、朝見遺跡は条里制をおこなうために置かれた可能性が高いとされています。櫛田川流域には、朝見遺跡以外にも、石帯や緑釉陶器(2)、文字の書かれた土器（墨書土器）が見つかる遺跡がいくつか存在し、これらの遺跡も条里制をおこなうために置かれたのではないかと考えられています。南山遺跡でも石帯や緑釉陶器片、文字の書かれた土器（墨書土器）が見つかっており、また、南山遺跡で見つかった井戸と同じ構造をもつ井戸も朝見遺跡から見つかっています。平成 26 年度の朝見遺跡の発掘調査では、耕地経営の拠点あるいはその付属の建物だと考えられる大型の掘立柱建物(3)跡（資料 9 の建物 1）が見つかりました。資料 8 は、朝見遺跡の発掘調査で見つかった昔の建物の柱穴跡で、それを図面にすると資料 9 のようになります。資料 9 の建物 1 を見てください。建物 1 は、南側と西側に庇がつき、さらに南側に縁のつく二面庇の掘立柱建物跡（東西 10m・南北 9m）です。南山遺跡の発掘調査の際の図面（資料 10）を見てみると、縁はないものの南側と東側に庇のつく二面庇の掘立柱建物跡（丸で囲んだ部分、東西 8.6m・南北 7m）があり、朝見遺跡で見つかった掘立柱建物跡と似た構造をしています。



資料 9　掘立柱建物群「三重県埋蔵文化財センター提供（一部改変）」



資料 10　南山遺跡発掘調査区実測図より抜粋

もちろん、これらのことだけで南山遺跡が条里制をおこなうために置かれた集落跡であると言い切ることはできませんが、南山遺跡付近まで条里制がおこなわれていることや、朝見遺跡と共通性のある遺物や井戸の跡・建物跡が見つかっていることを考えると、もしかすると南山遺跡も条里制と関わりがあり、そのために この地に官人が配置されていたのかも知れません。

○水田の字名に「広町」！？

そして、南山遺跡付近で気になる字名を見つけました。資料 7 を見ると、南山遺跡のすぐ南の水田の字名は「水落」となっています。しかし、明治 16 年に作成された『多気郡土古路村地誌』には、水落の旧字名も記載されており、それによると、水落の旧字名は水落と「広町」と記されています。なぜ水田に広町という字名がつけられたのでしょうか？　この字名がいつの時代まで遡るものかわかりませんが、南山遺跡のあったすぐ南の水田に広町という字名がつけられた理由が気になります。

○おわりに

南山遺跡からは、漁業を営む人びとが生活していたことを示す遺物や塩に関連する遺物が見つかっています。しかし、それだけではなく、この遺跡からは、身分の高い人びと（官人）がいたことを示す遺物もみつかりました。南山遺跡は、川や海の物流拠点であり、その管理・運営のために官人がこの地にいたのでしょうか？　それとも官人は条里制と何らかの関わりがあるのでしょうか？　南山遺跡は、実に興味深い遺跡といえます。

みなさん、ぜひこの機会に夏季企画展「南山遺跡」にお越しください。ご来館、お待ちしています。(担当)

(2) 光沢のある緑色の釉薬がかかった当時の高級陶器。

(3) 地面に穴を掘り、柱の下の部分を埋め込んで柱を立てる建物。

※この記事を書く際、『南山遺跡発掘概報Ⅰ』（松阪市教育委員会、1979 年）、『南山遺跡発掘調査報告』（松阪市教育委員会、1980 年）、『朝見遺跡（第 1・2 次）発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、2014 年）、『水と大地といにしえの人びと～松阪市朝見地区の発掘調査から～』（三重県埋蔵文化財センター、2015 年）、『松阪市史　別巻 1　松阪地図集成』（1983 年）、『松阪市史　第 9 巻　史料篇　地誌（2）』（1981 年）を参考にしました。